

PRI 報告フレームワーク

サステナビリティ・アウトカム

2023

最終改訂日: 2023 年 4 月 14 日

本資料は日本語参考訳です。英語の PRI REPORTING FRAMEWORK も併せてご確認ください。

日本語版と英語版で相違が生じている場合には、英語版の内容が優先します。

目次

サステナビリティ・アウトカムにおける目標設定[SO 1、SO 2、SO 2.1]	4
SO 1	4
SO 2	8
SO 2.1	12
フォーカス: ネットゼロ目標の設定[SO 3、SO 3.1、SO 3.2、SO 3.3]	14
SO 3	14
SO 3.1	16
SO 3.2	20
SO 3.3	24
目標に対する進捗状況の追跡[SO 4、SO 4.1]	26
SO 4	26
SO 4.1	28
サステナビリティ・アウトカムに取り組むために使用した手段[SO 5]	31
SO 5	31
資産配分[SO 6、SO 7]	34
SO 6	34
SO 7	36
投資先に対するスチュワードシップ[SO 8、SO 9]	38
SO 8	38
SO 9	41
外部の投資運用会社に対するスチュワードシップ[SO 10]	43

SO 10	43
スチュワードシップ:政策立案者に対するエンゲージメント[SO 11]	45
SO 11	45
スチュワードシップ:他の主要なステークホルダーに対するエンゲージメント[SO 12]	48
SO 12	48
スチュワードシップ:協働[SO 13]	51
SO 13	51

目標設定と進捗状況の追跡

サステナビリティ・アウトカムにおける目標設定[SO 1、SO 2、SO 2.1]

指標 ID	依存関係	PGS 48	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 1	ゲートウェイ	SO 2、SO 2.1、SO 3	サステナビリティ・アウトカムにおける目標設定	1、2	プラス 自主開示

貴組織が**取り組んできた**、投資活動に関連する**サステナビリティ・アウトカム**は具体的にどのようなものですか。

これらの具体的なサステナビリティ・アウトカムを 10 件までリストアップしてください。

	(1)このサステナビリティ・アウトカムに関する 行動の指針として広く認識されている フレームワーク	(2)サステナビリティ・ アウトカムの分類	(3)サステナビリティ・ アウトカムの名称	(4)このアウトカムに対して 設定された目標数
☐ (A)サステナビリティの アウトカム#1	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1) 国連による持続可能な開発目標 (SDGs)とターゲット (2) 国連気候変動枠組条約(UNFCCC) パリ協定 (3) 国連によるビジネスと人権に関する指導原則(UNGPs) (4) 経済協力開発機構(OECD)のフレームワーク:OECD の多国籍企業行動指針	[多項目選択式の ドロップダウン・リスト] (1)環境 (2)社会 (3)ガバナンス関連 (4)その他	[自由記述(必須):スモール]	[ドロップダウン・リスト] (1)なし (2)1 件 (3)2 件以上

	および機関投資家の責任ある企業行動に関するガイダンス (5) EU タクソノミー (6) その他の関連するタクソノミー (7) 国際人権規約 (8) 国際労働機関の労働における基本的原則および権利に関する宣言および 8 つの中核的な条約 (9) 生物多様性条約 (10) その他の国際的、地域的、セクター別、課題別のフレームワーク			
□ (B) サステナビリティのアウトカム#2	[同上]	[同上]	[同上]	[同上]
...	...	...	...	...
□ (J) サステナビリティのアウトカム#10	[同上]	[同上]	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が取り組むことに決めたサステナビリティ・アウトカムと、そのために目標や目的を設定しているかどうかを特定することです。署名機関は、投資活動に関連した最も重要なマイナスのアウトカムを減らし、最も重要なポジティブなアウトカムを増やすことが推奨されます。最も重要なサステナビリティのアウトカムとは、人間または環境に対する潜在的な影響が最も高いもの（プラスまたはマイナスの影響）のことです。例えば、人権の課題に関して、最も重要な人権のアウトカムとは、企業の活動やビジネス関係による影響を最も直接的に受けるものです。 署名機関にとって、サステナビリティの目標および閾値と一致したアウトカムに取り組むことは、優れた取り組みであると考えられ、一般的に社会的な目標や地球の閾値を反映しています。また、署名機関にとって、目標や目的を設定することは、サステナビリティ・アウトカムに取り組むための推進力となり、整合性を保つ上で優れた取り組みであると考えられます。

	以降の指標では、ここに記述した成果に対して取り組むために、署名機関がどのように対応してきたかについての詳細が尋ねられます。本指標はモジュール内の残りの指標のゲートウェイとしても機能します。													
追加報告ガイダンス	本指標において、署名機関の投資活動に「関連する」サステナビリティ・アウトカムとは、そのような活動に直接的または間接的に関連するサステナビリティ・アウトカムを指します。 本指標において、「投資活動」とは、投資の意思決定とスチュワードシップ活動を指します。 本指標に対する回答では、署名機関が取り組むことに決めたサステナビリティ・アウトカムを 10 件まで記載し、説明してください。残りのモジュールのロックを解除するには、アウトカムごとに(2)～(4)を完了させる必要があります。本モジュールの以降の指標では、本指標に記述した特定のサステナビリティのアウトカムに対して署名機関が取り組んだ行動についての詳細が尋ねられます。 (1)では、記述した各アウトカムに関する行動の指針として使用したグローバルなサステナビリティの目標および閾値(の組み合わせ)を選択してください。グローバルなサステナビリティの目標と閾値は、目標設定時など、サステナビリティの観点から事業体が活動する際の背景を提供します。 「国際人権規約」には、世界人権宣言、市民のおよび政治的権利に関する国際規約、経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約が含まれます。 (2)では、署名機関は関連するアウトカムが社会、環境、ガバナンスのいずれか(または複数)に関連するのかを回答してください。 - 環境配慮に関連するアウトカムには、気候変動の緩和、サステナブル・コモディティ、循環性、生物多様性、物理的な気候リスクなどに関連するものが含まれる場合があります。 - 社会的配慮に関連するアウトカムには、人権、ディーセント・ワーク、多様性、公平性、包摂性、健康などに関連するものが含まれる場合があります。 - ガバナンスに関連するアウトカムとしては、税の公平性、汚職防止、内部告発に関する取り組みの改善などが含まれる場合があります。 - 一部の成果は上記の配慮の組み合わせに関連する場合があります。例えば、公正な移行に関する成果は、環境と社会的な配慮の両方に関連する場合があります。 (3)では、署名機関が取り組むことに決めたアウトカムの名称を記入してください。多くのアウトカムが関連しているため(気候変動と水不足、食料安全保障と貧困など)、投資家は、投資活動に関連して最も重要な成果を検討する際に、すべての投資先と SDGs を総合的に検討します。 (4)では、署名機関が行動を取るサステナビリティのアウトカムごとに、いくつかの目標(ある場合)を設定したかを記入してください。目標は、測定可能(定量的)であっても、不可能(定性的)でも構いません。これらの目標は長期計画の一部、あるいは新規および継続的、実際および潜在的、プラスおよびマイナスのサステナビリティのアウトカムを特定することを目的とした継続的なモニタリングまたはデュー・デリジェンスの結果として設定することもできます。 事例: <table> <tr> <th></th><th>(1)このサステナビリティ・アウトカムに関する行動の指針として広く認識されているフレームワーク</th><th>(2)サステナビリティ・アウトカムの分類</th><th>(3)サステナビリティ・アウトカムの名称</th><th>(4)このアウトカムに対していくつかの目標を設定しましたか。</th></tr> <tr> <td>(A) サステナビリティ・アウトカム #1</td><td>国連気候変動枠組条約(UNFCCC) パリ協定</td><td>環境</td><td>温室効果ガスの排出</td><td>(2) 1 件</td></tr> </table>					(1)このサステナビリティ・アウトカムに関する行動の指針として広く認識されているフレームワーク	(2)サステナビリティ・アウトカムの分類	(3)サステナビリティ・アウトカムの名称	(4)このアウトカムに対していくつかの目標を設定しましたか。	(A) サステナビリティ・アウトカム #1	国連気候変動枠組条約(UNFCCC) パリ協定	環境	温室効果ガスの排出	(2) 1 件
	(1)このサステナビリティ・アウトカムに関する行動の指針として広く認識されているフレームワーク	(2)サステナビリティ・アウトカムの分類	(3)サステナビリティ・アウトカムの名称	(4)このアウトカムに対していくつかの目標を設定しましたか。										
(A) サステナビリティ・アウトカム #1	国連気候変動枠組条約(UNFCCC) パリ協定	環境	温室効果ガスの排出	(2) 1 件										

	(B)サステナビリティ・アウトカム #2	国際人権規約	社会	生活賃金の支給	(3)2 件以上
他のリソース	その他のガイダンスについては、SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク(Investing with SDG outcomes:A five-part framework)を参照してください。 署名機関が自社の活動に関連するサステナビリティ・アウトカムを考慮すべき理由を明確にするため、SDGs 投資事例(The SDG investment case)を参照してください。 他の PRI 署名機関が提供したケース・スタディについては、SDGs 成果のケース・スタディ(SDG outcomes case studies)を参照してください。 国連による持続可能な開発目標 (SDGs)とターゲット (UN Sustainable Development Goals (SDGs) and targets) 国連気候変動枠組条約 (UNFCCC) パリ協定 (UNFCCC Paris Agreement) 国連によるビジネスと人権に関する指導原則 (UN Guiding Principles on Business and Human Rights (UNGPs)) OECD 多国籍企業行動指針 (OECD Guidelines for Multinational Enterprises) および 機関投資家の責任ある企業行動 (Responsible Business Conduct for Institutional Investors)に関するガイダンス EU タクソノミー (EU Taxonomy) 国際人権規約 (International Bill of Human Rights) 国際労働機関の労働における基本的原則および権利に関する宣言 (International Labour Organizaton'sDeclaration on Fundamental Principles and Rights at Work) および 8 つの中核的な条約 生物多様性条約 (Convention on Biological Diversity)				
ロジック					
依存関係	[PGS 48]				
ゲートウェイ	[SO 2]、[SO 2.1]、[SO 3]				
評価					
評価対象外					

指標 ID SO 2	依存関係	SO 1	サブセクション サステナビリティ・アウトカムにおける目標設定	PRI 原則 1	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	SO 2.1、SO 4、SO 5			

各サステナビリティ・アウトカムにおいて、直近の目標(2 件まで)を具体的に回答してください。

本モジュール内の以降の指標のロックを解除するには、少なくとも目標の名称を記入する必要があります。

目標は、測定可能(定量的)であっても、不可能(定性的)でも構いません。これらの目標は長期計画の一部、あるいは新規および継続的、実際および潜在的、プラスおよびマイナスのサステナビリティ・アウトカムを特定することを目的とした継続的なモニタリングまたデュー・デリジェンスの結果として設定することもできます。

	目標の詳細	
(A1) サステナビリティ・アウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 1)	(1) 目標の名称	_____ [自由記述(任意): エクストラ・スモール]
	(2) 基準年	[YYYY]
	(3) 目標達成期限	[YYYY]
	(4) 方法	_____ [自由記述(任意): ラージ]
	(5) 使用した測定基準(該当する場合)	_____ [自由記述(任意): スモール]
	(6) 絶対値または原単位ベース(該当する場合)	[ド롭ダウン・リスト] (1) 絶対値 (2) 原単位ベース
	(7) 基準のレベルまたは量(該当する場合)	_____ [自由記述(任意): スモール]

	(8) 目標レベルまたは量(該当する場合)	_____ [自由記述(任意):スモール]
	(9) 目標設定の基準年にカバーされる AUM 合計の比率	_____ %
	(10)より長期的な目標の有無	[ドロップダウン・リスト] (1) あり (2) なし
(A2)サステナビリティ・アウトカム#1:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 2)	[同上]	[同上]
...	...	...
(J1)サステナビリティ・アウトカム#10:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 1)	[同上]	[同上]
(J2)サステナビリティ・アウトカム#10:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 2)	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、サステナビリティ・アウトカムに関する直近の目標を達成するために、署名機関がどの程度の具体性と熱意の度合いを持って行動しているかを確認することです。より長期的な目標は、このモジュールの後半で報告できます。 気候変動のような特定のサステナビリティ・アウトカムや体系的な持続可能性の課題については、これらの課題に取り組むために必要な緊急の対応を推進するための意欲的な短期目標を持つ一方、この短期行動を形成し、方向付けるための長期目標を設定することは、優れた取り組みであると考えられます。本指標で、署名機関は、中間目標を含め直近の目標を報告してください。長期的な目標がある署名機関は、本指標の項目(10)にその旨を記入し、モジュール内の後半で示すこともできます。

追加報告ガイダンス

指標[SO 1]に記載された各サステナビリティ・アウトカムにおいて、署名機関は最大 2 件の目標についての詳細を回答してください。本モジュール内の以降の指標のロックを解除するには、少なくとも目標の名称を記入する必要があります。

一般的に投資家は、アウトカムよりも活動に重点を置いて目標を設定します。ただし、本指標に記載されている目標は、サステナビリティ・アウトカムに焦点を当てたものである必要があります。活動に焦点を当てた目標の例として、AUM の何割かをグリーン・ボンドに投資することが挙げられます。これに対するアウトカム重視の目標として、例えば、単位発電量当たりの排出原単位 (g/kWh) を目標に設定することが挙げられます。目標は、パブリック市場またはプライベート市場における既存または新規投資を対象とし、内部または委託運用かどうかは問いません。

目標は、測定可能(定量的)であっても、不可能(定性的)でも構いません。これらの目標は長期計画の一部、あるいは新規および継続的、実際および潜在的、プラスおよびマイナスのサステナビリティのアウトカムを特定することを目的とした継続的なモニタリングまたはデュー・デリジェンスの結果として設定することもできます。

本指標の項目は、定量的目標に関連しているものもあれば、定性的目標に関連しているものもあります。

事例

- 温室効果ガスの排出量に関する定量的目標については、この表の全項目が関連します。
- 人権関連の成果に関する定性的目標には、関連する項目として、「(1) 目標の名称」、「(2) 基準年」、「(3) 目標達成期限」、「(4) 方法」、「(9) 目標設定の基準年にカバーされる AUM 合計の比率」、「(10) より長期的な目標の有無」などがあります。

「(1) 目標の名称」には、このモジュール以降の指標でこの目標を参照するための短いタイトルをつけてください。

「(2) 基準年」には、進捗を評価するための基準年を示してください。

「(3) 目標達成期限」には、署名機関が設定した目標達成のための期限を回答してください。

「(4) 方法」には、この目標を設定するために採用した方法について、関連するあらゆる詳細を回答する必要があります。これには、[SO 1]で言及されているグローバルなサステナビリティの目標および閾値が、この目標の設定にどのように用いられたか、実施したデュー・デリジェンスの詳細、または使用した情報源などに関する詳細を含めます。人権関連の目標について報告する署名機関は、目標設定プロセスの一環として意見を聞いたステークホルダーを明記してください。

「(5) 使用した測定基準(該当する場合)」には、進捗の追跡と評価に使用した測定基準を示してください。使用される指標は、定量的でも定性的でも構いません。

「(6) 絶対値または原単位ベース」には、目標が絶対的なものか、事業活動の測定値(収益単位あたりの CO2-eq)に対する相対的なものかを明記してください。

「(7) 基準のレベルまたは量(該当する場合)」には、取り組んでいる成果に関する基準年での量、レベル、または状況を報告してください。

	「(8) 目標達成期限または量(該当する場合)」には、署名機関が取り組むアウトカムに関して、それらの期限つまり「目標達成期限」の日付に達成したい量、レベル、状況などを示してください。目標を、グローバルなサステナビリティの目標および閾値と一致させることは、優れた取り組みであると考えられます。 「(9) 目標設定の基準年にカバーされる AUM 合計の比率」には、目標とする AUM 合計の比率を示してください。この比率は、基準年における署名機関の AUM 合計を考慮して算出してください。なお、この項目は、投資先、投資運用会社、政策立案者、その他の主要なステークホルダーに対するスチュワードシップを通じて進める目標には適用されない場合があります。 「(10) より長期的な目標の有無」には、[SO 2] に記述された目標に対する長期的なマイルストーンも設定しているかを回答してください。例えば、[SO 2] に記述された目標が中間目標の場合、署名機関は「はい」を選択し、指標[SO 2.1]に長期目標または包括的目標の詳細を回答してください。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework)を参照してください。 他の PRI 署名機関が提供したケース・スタディについては、SDGs 成果のケース・スタディ (SDG outcomes case studies)を参照してください。 意義のあるデータの推進: 財務的重要性、サステナビリティ・パフォーマンス、サステナビリティのアウトカム (Driving meaningful data: financial materiality, sustainability performance and sustainability outcomes)も参照してください。 目標設定に関するその他のガイダンスについては、Impact Management Platform の専用ガイダンスを参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 1]
ゲートウェイ	[SO 2.1]、[SO 4]、[SO 5]
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	SO 1、SO 2	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 2.1	ゲートウェイ	該当なし	サステナビリティ・アウトカムにおける目標設定	1	プラス 自主開示

各サステナビリティ・アウトカムにおいて、直近の長期目標(2 件まで)を具体的に回答してください。

	目標の詳細	
(A1)サステナビリティ・アウトカム#1:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 1)	(1)目標の名称	[SO 2 の(1)から事前入力済み]
	(2)長期目標達成期限	[YYYY]
	(3)長期目標レベルまたは量 (該当する場合)	[自由記述(任意): スモール]
(A2)サステナビリティ・アウトカム#1:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 2)	[同上]	
...	...	
(J1)サステナビリティ・アウトカム#10:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 1)	[同上]	
(J2)サステナビリティ・アウトカム#10:[SO 1 の(3)への回答が事前入力済み](目標 2)	[同上]	

説明

指標の目的	本指標の目的は、署名機関の長期目標の熱意の度合いを理解することです。指標[SO 3.1]で回答した詳細と合わせると、サステナビリティ・アウトカムに向けて取り組む署名機関のアプローチについて、より全体的な理解が得られます。 署名機関にとって、取り組んでいるさまざまな成果に最も適した時間枠に沿って、直近の目標と長期の目標を設定することは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	「(1) 目標の名称」は、参照しやすいように、[SO 2]の回答に基づいて事前入力されます。 「(2) 目標達成期限」には、目標達成に向けて署名機関が設定した全体の長期期限を回答してください。 「(3) 目標達成期限または量(該当する場合)」には、署名機関が取り組む成果に関して、全体の長期期限つまり「長期目標達成期限」の日付時点で達成することを目指す最終的な量、レベル、状況を示してください。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework)を参照してください。 他の PRI 署名機関が提供したケース・スタディについては、SDGs アウトカムのケース・スタディ (SDG outcomes case studies)を参照してください。 意義のあるデータの推進: 財務的重要性、サステナビリティ・パフォーマンス、サステナビリティ・アウトカム (Driving meaningful data: financial materiality, sustainability performance and sustainability outcomes)も参照してください。 目標設定に関するその他のガイダンスについては、Impact Management Platform の専用ガイダンスを参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 1]、[SO 2]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

フォーカス: ネットゼロ目標の設定[SO 3、SO 3.1、SO 3.2、SO 3.3]

指標 ID	依存関係	SO 1	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 3	ゲートウェイ	SO 3.1、SO 3.2、SO 3.3	フォーカス: ネットゼロの目標設定	一般	プラス 自主開示

貴組織に該当する場合、ネットゼロ目標の詳細を回答するようオプト・インすることができます。

本指標の内容は、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) および／または Net-Zero Asset Managers Initiative (NZAM) の報告要件に基づいています。

- ☐ (A) はい、当組織の資産クラス別のネットゼロ目標について、さらに詳しく回答したい
- ☐ (B) はい、高排出セクターに対する組織のネットゼロ目標について、さらに詳しく回答したい
- ☐ (C) はい、当組織のマンドートまたはファンド固有のネットゼロ目標について、さらに詳しく回答したい
- ☐ (D) いいえ、当組織の資産クラス、高排出セクター、マンドートまたはファンド固有のネットゼロ目標について、さらに詳しく回答したくない
- ☐ (E) いいえ、当組織には資産クラス、高排出セクター、マンドートまたはファンド固有のネットゼロ目標がない

説明	
指標の目的	本指標は、署名機関のネットゼロ目標に関するより詳細な指標へのゲートウェイとして機能します。ネットゼロ目標に関する追加情報の提供は、署名機関の完全な任意です。
追加報告ガイダンス	オプション(A)を選択すると、指標[SO 3.1]のロックが解除され、資産クラス・レベルでのネットゼロ目標の詳細(不動産資産に対する特定の目標など)を回答できます。
	オプション(B)を選択すると、指標[SO 3.2]のロックが解除され、特定の高排出セクターに関するネットゼロ目標の詳細(化石燃料投資に関する特定の目標など)を回答できます。
	オプション(C)を選択すると、指標[SO 3.3]のロックが解除され、特定のファンドやマンドートに関するネットゼロ目標の詳細を回答できます。
他のリソース	異なる資産クラスや高排出セクターでのネットゼロ目標の設定に関するガイダンスについては、Net-Zero Asset Owner Alliance (NZAOA) の 目標設定プロトコル、第2版 (Target Setting Protocol, Second Edition) を参照してください。

ロジック	
依存関係	[SO 1]
ゲートウェイ	[SO 3.1]、[SO 3.2]、[SO 3.3]
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	SO 3	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 3.1	ゲートウェイ	該当なし	フォーカス: ネットゼロの目標設定	一般	プラス 自主開示

アセット・クラスごとの直近のネットゼロ目標の詳細を回答してください。

本指標の内容は、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) および／または Net-Zero Asset Managers Initiative (NZAM) の報告要件に基づいています。

	目標の詳細	
(A) PRI アセット・クラスの内訳 (アセット・クラスごとに 1 行) ☐ 上場株式 ☐ 債券 ☐ プライベート・エクイティ ☐ 不動産 ☐ インフラストラクチャー ☐ ヘッジ・ファンド ☐ 森林 ☐ 農地 ☐ その他	(1) 基準年	[YYYY]
	(2) 目標達成期限	[YYYY]
	(3) 目標に含まれる排出量	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1) スコープ 1 (2) スコープ 2 (3) スコープ 3
	(4) 方法	[自由記述(任意): ラージ]
	(5) 使用した測定基準	[ドロップダウン・リスト] (1) 絶対値: MtCO ₂ (2) 絶対値: MtCO ₂ e (3) 原単位ベース: tCO ₂ e (百万米ドルあたり) (4) 原単位ベース: tCO ₂ (百万米ドルあたり) (5) 原単位ベース: tCO ₂ e (売上百万米ドルあたり) (6) 原単位ベース: tCO ₂ (売上百万米ドルあたり)

		(7)原単位ベース:tCO2e(収益百万米ドルあたり) (8)原単位ベース:tCO2(収益百万米ドルあたり) (9)その他
	(6)基準量	[自由記述(任意):スモール]
	(7)現在の量(基準量と異なる場合)	[自由記述(任意):スモール]
	(8)基準に対する目標削減値	_____ [%]
	(9)目標設定の基準年にカバーされる AUM 合計の比率	_____ [%]
	(10)本アセット・クラスの比率が 100%を下回る場合の理由	[自由記述(任意):ラージ]
(B)NZAOA TSP アセット・クラスの内訳 (アセット・クラスごとに 1 行) ☐ 社債 ☐ 上場株式 ☐ 不動産(直接) ☐ 不動産ファンド(間接) ☐ 不動産デット(直接モーゲージを含む) ☐ インフラストラクチャー・エクイティ ☐ インフラストラクチャー・デット ☐ 国際機関債、ソブリン債、エージェンシー債 ☐ プライベート・エクイティ ☐ 上場企業への民間融資 ☐ プライベート・デット ☐ 現金	[同上]	

☐ その他の資産クラス ☐ 社債、株式の組み合わせ ☐ 債券、株式、不動産の組み合わせ（直接） ☐ 債券、株式、不動産、インフラストラクチャーの組み合わせ	
--	--

説明	
指標の目的	本指標の目的は、ネットゼロ・エミッションへの道筋の一環として、署名機関が温室効果ガス排出量削減のために設定した資産クラスレベルの目標についての具体性と熱意の度合いを確認することです。
追加報告ガイダンス	本指標は、Net-zero Asset Owners Alliance (NZAOA) の「目標設定プロトコル」におけるサブポートフォリオ目標に基づいています。 「(1) 基準年」には、進捗を評価するための基準年を回答してください。 「(2) 目標達成期限」には、署名機関が設定した目標達成のための期限を回答してください。 「(3) 目標に含まれる排出量」には、どの排出量が目標に含まれるかを示してください。二酸化炭素の排出量には 3 つのカテゴリーがあります： • スコープ 1: 企業の事業活動から発生する排出量を示します。 • スコープ 2: エネルギー購入に伴う排出量を示します。 • スコープ 3: 企業のサプライチェーンおよび顧客の製品やサービスの使用による排出量を捉え、投資ポートフォリオに関連するような投融資先の排出量も含まれます。投融資先の排出量は、金融向け炭素会計パートナーシップ (PCAF) が策定した基準により算出することができます。 「(4) 方法」には、この目標を設定するために採用した方法について、関連する詳細を回答してください。ネットゼロ目標は、国連が提唱する Net-Zero Asset Owner Alliance (NZAOA) の目標設定プロトコル、Science-Based Targets Initiative (SBTi)、Paris Aligned Investment Framework などと整合させる必要があります。この項目では、署名機関は、スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の排出量（該当する場合）の算出に用いた方法も回答してください。 「(5) 使用した測定基準」では、(6)、(7) および/または (8) で報告された量を測定するための絶対値または原単位ベースを選択してください。該当する場合、基準、現状、目標量の測定に同じ測定基準を使用してください。 「(6) 基準量」には、基準年における排出量を報告してください。

	「(7)現在の量(基準量と異なる場合)」には、報告年度末の排出量を報告してください。 「(8)基準に対する目標削減値」には、「基準量」に対して、期限日または「目標達成期限」までに削減を目指す比率を示してください。 「(9)目標設定の基準年にカバーされる AUM 合計の比率」には、目標とする AUM 合計の比率を示してください。この比率は、基準年における署名機関の AUM 合計を考慮して算出してください。
他のリソース	異なる資産クラスのネットゼロ目標の設定に関するガイダンスについては、Net-Zero Asset Owner Alliance (NZAOA) の 目標設定プロトコル、第 2 版 (Target Setting Protocol, Second Edition) を参照してください。 Paris Aligned Investment Initiative (PAII) の ネットゼロ・フレームワーク実施ガイド (Net-zero Framework Implementation Guide) も参照してください。 Science-Based Targets Initiative (SBTi) の ネットゼロ基準 (Net-Zero Standard) も参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 3]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	SO 3	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 3.2	ゲートウェイ	該当なし	フォーカス: ネットゼロの目標設定	一般	プラス 自主開示

高排出セクターに対する直近のネットゼロ目標を詳細に説明してください。

本指標の内容は、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) および／または Net-Zero Asset Managers Initiative (NZAM) の報告要件に基づいています。

	目標の詳細	
□ (A) 石炭	(1) 基準年	[YYYY]
	(2) 目標達成期限	[YYYY]
	(3) 目標に含まれる排出量	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1) スコープ 1 (2) スコープ 2 (3) スコープ 3
	(4) 方法	[自由記述 (任意): ラージ]
	(5) 使用した測定基準	[ドロップダウン・リスト] (1) 絶対値: MtCO2 (2) 絶対値: MtCO2e (3) 原単位ベース: tCO2e (百万米ドルあたり) (4) 原単位ベース: tCO2 (百万米ドルあたり) (5) 原単位ベース: tCO2e (売上百万米ドルあたり) (6) 原単位ベース: tCO2 (売上百万米ドルあたり)

		(7) 原単位ベース: tCO ₂ e (収益百万米ドルあたり) (8) 原単位ベース: tCO ₂ (収益百万米ドルあたり) (9) その他
	(6) 基準量	[自由記述(任意): スモール]
	(7) 現在の量(基準量と異なる場合)	[自由記述(任意): スモール]
	(8) 基準に対する目標削減値	_____ %
	(9) 対象となる資産クラス	[多項目選択式のドロップダウン・リスト]
☐ (B) ガス	[同上]	
☐ (C) 石油	[同上]	
☐ (D) 石油とガスの組み合わせ	[同上]	
☐ (E) 公益事業	[同上]	
☐ (F) セメント	[同上]	
☐ (G) スチール	[同上]	
☐ (H) 航空分野	[同上]	
☐ (I) 重貨物陸運	[同上]	
☐ (J) 軽貨物陸運	[同上]	

☐ (K) 船舶	[同上]
☐ (L) 航空分野、重荷重道路、軽荷重道路、船舶の組み合わせ	[同上]
☐ (M) アルミニウム	[同上]
☐ (N) 農業、森林、漁業	[同上]
☐ (O) 化学製品	[同上]
☐ (P) 建設、建築	[同上]
☐ (Q) 繊維、皮革製品	[同上]
☐ (R) 水	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、ネットゼロ・エミッションへの道筋の一環として、署名機関が高排出セクターの温室効果ガス排出量を削減するために設定した目標の具体性と熱意の度合いを確認することです。
追加報告ガイダンス	本指標は、Net-zero Asset Owners Alliance (NZAOA) の「目標設定プロトコル」におけるセクター目標に基づいています。 「(1) 基準年」には、進捗を評価するための基準年を回答してください。 「(2) 目標達成期限」には、署名機関が設定した目標達成のための期限を回答してください。 「(3) 目標に含まれる排出量」には、どの排出量が目標に含まれるかを示してください。二酸化炭素の排出量には 3 つのカテゴリーがあります： ・ スコープ 1: 企業の事業活動から発生する排出量を示します。 ・ スコープ 2: エネルギー購入に伴う排出量を示します。 ・ スコープ 3: 企業のサプライチェーンおよび顧客の製品やサービスの使用による排出量を捉え、投資ポートフォリオに関連するような投融資先の排出量も含まれます。投融資先の排出量は、金融向け炭素会計パートナーシップ(PCAF)が策定した基準により算出することができます。

	「(4)方法」には、この目標を設定するために採用した方法について、関連する詳細を回答してください。ネットゼロ目標は、国連が提唱する Net-Zero Asset Owner Alliance (NZAOA) の目標設定プロトコル、Science-Based Targets Initiative (SBTi)、Paris Aligned Investment Framework などと整合させる必要があります。この項目では、署名機関は、スコープ 1、スコープ 2、スコープ 3 の排出量(該当する場合)の算出に用いた方法も回答してください。 「(5)使用した測定基準」では、(6)、(7)および／または(8)で報告された量を測定するための絶対値または原単位ベースを選択してください。該当する場合、基準、現状、目標量の測定に同じ測定基準を使用してください。 「(6)基準量」には、基準年における排出量を報告してください。 「(7)現在の量(基準量と異なる場合)」には、報告年度末の排出量を報告してください。 「(8)基準に対する目標削減値」には、「基準量」に対して、期限日または「目標達成期限」までに削減を目指す比率を示してください。 「(9)対象となる資産クラス」には、各該当セクターが対象とする資産クラスを示してください。
他のリソース	高排出セクターでのネットゼロ目標の設定に関するガイダンスについては、Net-Zero Asset Owner Alliance (NZAOA) の 目標設定プロトコル、第2版 (Target Setting Protocol, Second Edition) を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 3]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID SO 3.3	依存関係	SO 3	サブセクション フォーカス: ネットゼロの目標設定	PRI 原則 一般	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

特定のマンドートまたはファンドに関するネットゼロ目標を詳細に説明してください。

本指標の内容は、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) および／または Net-Zero Asset Managers Initiative (NZAM) の報告要件に基づいています。

	(1) マンドートまたはファンド名	(2) 目標の詳細
☐ (A) ファンドまたはマンドート#1	[自由記述(任意): ミディアム]	[自由記述(任意): ラージ]
☐ (B) ファンドまたはマンドート#2	[同上]	[同上]
...	...	...
☐ (J) ファンドまたはマンドート#10	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関に設定したファンドまたはマンドート固有の目標について報告する機会を提供することです。
追加報告ガイダンス	「(2) 目標達成時期」には、ファンドまたはマンドートの固有のネットゼロ目標に関連する詳細を回答してください。この詳細には以下を含めることができます： - 基準年 - 目標達成期限 - 目標に含まれる排出量 - 方法 - 使用した測定基準

	- 基準量 - 現在の量(基準量と異なる場合) - 目標量 - 対象となる資産クラス - 基準年におけるファンドまたはマンデートの AUM 合計の比率(目標設定用)
他のリソース	特定のマンデートやファンドのネットゼロ目標に関するその他の状況については、 Net-zero Asset Managers (NZAM) のウェブサイト を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 3]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

目標に対する進捗状況の追跡[SO 4、SO 4.1]

指標 ID	依存関係	SO 2	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 4	ゲートウェイ	SO 4.1	目標に対する進捗状況の追跡	1	プラス 自主開示
貴組織は、直近のサステナビリティ・アウトカム目標に対する進捗を追跡していますか。 直近の目標についてのみ、具体的に回答してください。目標は、測定可能(定量的)であっても、不可能(定性的)でも構いません。					
(A1)サステナビリティ・アウトカム#1: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標1:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)			☐ (1)はい ☐ (2)いいえ いいえと回答した理由を説明: _____ [自由記述(任意):スモール]		
(A2)サステナビリティ・アウトカム#1: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標2:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)			[同上]		
...			...		
(J1)サステナビリティ・アウトカム#10: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標1:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)			[同上]		
(J2)サステナビリティ・アウトカム#10: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標2:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)			[同上]		

説明

指標の目的	本指標の目的は、直近のサステナビリティ・アウトカム目標について、署名機関がその進捗を追跡しているかどうかを評価することです。署名機関にとって、目標に対する中間進捗を追跡し（目標期限つまり「目標達成期限」の日付よりも前に）、遅れがあればそれを特定し、期限内に対処することは、優れた取り組みであると考えられます。 本指標は、署名機関の直近の目標に対する進捗のみに焦点を当てています。関連する長期目標も存在する場合、直近の目標に対する進捗状況の追跡が、関連する長期目標に対する進捗状況の追跡につながります。
追加報告ガイダンス	署名機関は、直近の目標に対する進捗を追跡しているかどうかを回答してください。 「(1)はい」を選択すると、フォローアップ指標のロックが解除され、モニタリング・プロセスに関する詳細を回答できます。
他のリソース	その他の参考資料については、 SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 2]
ゲートウェイ	[SO 4.1]
評価	
評価対象外	

指標 ID	依存関係	SO 4	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 4.1	ゲートウェイ	該当なし	目標に対する進捗状況の追跡	1	プラス 自主開示

報告年度中に、貴組織は直近のサステナビリティ・アウトカムの目標に対しどのような定量的または定性的な進捗を達成しましたか。

直近の目標についてのみ、具体的に回答してください。目標は、測定可能(定量的)であっても、不可能(定性的)でも構いません。

	目標の詳細	
(A1)サステナビリティ・アウトカム#1: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標1:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)	(1)目標の名称	[SO 2 の(1)から事前入力済み]
	(3) 目標達成期限	[SO 2 の(3)から事前入力済み]
	(3)使用した測定基準(該当する場合)	[SO 2 の(5)から事前入力済み]
	(4)現在のレベルまたは量(該当する場合)	[自由記述(任意):ミディアム]
	(5)その他の定量または定性の進捗	[自由記述(任意):ラージ]
	(6)進捗状況の追跡方法	[自由記述(任意):ラージ]
(A2)サステナビリティ・アウトカム#1: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標2:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)	[同上]	
...	[同上]	
(J1)サステナビリティ・アウトカム#10:	[同上]	

(SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標1:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)	
(J2)サステナビリティ・アウトカム#10: (SO 1 の(3)への回答が事前入力済み) (目標2:SO 2 の(1)への回答が事前入力済み)	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が設定した直近のサステナビリティ・アウトカム目標に対する進捗状況、および報告年度における定量的または定性的な進捗を把握することです。 本指標は、署名機関の直近の目標に対する進捗のみに焦点を当てています。関連する長期目標も存在する場合、直近の目標に対する進捗状況の追跡が、関連する長期目標に対する進捗状況のモニタリングにつながります。
追加報告ガイダンス	項目(1)、(2)、(3)は、参照しやすいように、[SO 2]の回答に基づいて事前入力されます。 「(4)現在のレベルまたは量(該当する場合)」には、報告年度末までに、取り組んでいるアウトカムに関するの量、レベル、または状況を報告してください。 「(5)その他の定量的または定性的な進捗」には、「(4)現在のレベルまたは量(該当する場合)」で報告したレベルまたは量とは別に達成された進捗について詳しく回答してください。 「(6)進捗状況の追跡方法」には、目標に対する進捗を監視するために使用された定性的または定量的なプロセスの詳細を回答してください。これには、測定基準の使用、デュー・デリジェンスの実施、影響を受けるステークホルダーに対するエンゲージメントが含まれる場合があります。進捗状況を追跡するための方法は、最初に目標を設定したときの方法と共通することがよくあります。 事例: - ネットゼロ目標については、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) や Science-Based Targets Initiative (SBTi) の方法論などを用いることができます。 - 人権関連の目標についての事例: - 企業人権ベンチマークや World Benchmarking Alliance (WBA) による社会変革ベンチマークなどの社会的ベンチマークを用いて、特定の投資先企業の人権に関する進捗を測定します。 - 安全衛生上の問題など特定の社会的指標に対する投資先企業の進捗を測定します。 - 影響を受けるステークホルダーまたはその代表者(労働組合など)と協議し、特定の成果に対する企業の進捗を理解します。
他のリソース	その他の参考資料については、 SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク(Investing with SDG outcomes:A five-part framework) の第 3 部を参照してください。

ロジック	
依存関係	[SO 4]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

個人および協働的な投資家の成果に対する取り組み

サステナビリティ・アウトカムに取り組むために使用した手段[SO 5]

指標 ID SO 5	依存関係	SO 2	サブセクション サステナビリティ・アウトカムに取り組むた めに使用した手段	PRI 原則 1、2、5	指標種別 プラス 自主開示		
	ゲートウェイ	複数					
報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、以下のどの手段を用いましたか。							
☐ (A) 投資先に対するスチュワードシップ(エンゲージメント、(代理)議決権行使、非公開資産に対する直接的影響力を含む)			[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1) 個別に実施 (2) 他の投資家またはステークホルダーと協働				
☐ (B) スチュワードシップ: 外部の投資運用会社に対するエンゲージメント			[同上]				
☐ (C) スチュワードシップ: 政策立案者に対するエンゲージメント			[同上]				
☐ (D) スチュワードシップ: 他の主要なステークホルダーに対するエンゲージメント			[同上]				
☐ (E) 資産配分							
☐ (F) 報告年度中に、当組織はサステナビリティ・アウトカムに取り組むために、上記のいずれの手段も使用していない							

説明	
指標の目的	投資活動に関連するサステナビリティ・アウトカムに取り組むための署名機関の主なツールや手段には、(i) 資産配分や投資の意思決定、(ii) 投資先、外部の投資運用会社、政策立案者、その他の主要なステークホルダーに対するスチュワードシップが含まれます。署名機関は、これらの手段を個別に、あるいは他の投資家、政府、市民社会組織など他の組織と連携して使用することができます。 本指標の目的は、署名機関が、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、どのような手段を用いているかを評価することです。多様な手段を用い、より効果的で、より大規模な進捗を期待できる場合に連携することは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	回答オプション(A)、(B)、(C)、(D)または(E)を選択すると、追加指標のロックが解除され、スチュワードシップや資産配分活動の詳細を回答できます。 オプション(A)の「エンゲージメントと議決権行使を含む投資先に対するスチュワードシップ」とは、(1)サステナビリティ・アウトカムに焦点を当て、(2)エンゲージメント、(代理)議決権行使、プライベート・アセットへの直接的管理などを通して、実際の投資先または潜在的な投資先に影響力を行使するスチュワードシップ活動を指します。 オプション(B)の「スチュワードシップ: 外部の投資運用会社に対するエンゲージメント」は、(1)サステナビリティ・アウトカムに焦点を当て、(2)運用会社の選定、指名、モニタリングのプロセスなどを通じて、署名機関の実際のまたは潜在的な外部の投資運用会社に影響力を行使するスチュワードシップ活動を指します。 オプション(C)の「スチュワードシップ: 政策立案者に対するエンゲージメント」は、(1)サステナビリティ・アウトカムに焦点を当て、(2)政策協議への対応、政府または規制当局が支援するワーキング・グループによる技術情報の提供、署名機関主導での政策立案者との関わりなどを通じて、政策立案者に影響力を行使するスチュワードシップ活動を指します。 オプション(D)の「スチュワードシップ: 他の主要なステークホルダーに対するエンゲージメント」は、署名機関の投資やスチュワードシップ活動に関連して、(1)サステナビリティ・アウトカムに焦点を当て、(2)他の主要なステークホルダーに影響力を行使するスチュワードシップ活動を指します。その他の主なステークホルダーには、報告機関、基準策定機関、証券取引所、信用格付機関、監査人、その他の外部サービス・プロバイダー(議決権行使助言会社、投資コンサルタント、データ・プロバイダーなど)、学界、NGO 団体が含まれます。 オプション(E)の「資産配分」は、資産またはセクターの配分、第三者ファンドの選定と配分、または撤退などを含む投資の意思決定を指します。この手段が、署名機関のサステナビリティ・アウトカムの進捗にどのように貢献するかは、署名機関が投資する資産クラス、事業を展開する市場(パブリック、プライベートなど)、保有シェア、投資期間、規模やリソースによって異なります。
他のリソース	その他の参考資料については、 SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 2]
ゲートウェイ	[SO 6]、[SO 8]、[SO 9]、[SO 10]、[SO 11]、[SO 12]、[SO 13]

評価

評価対象外

資産配分[SO 6、SO 7]

指標 ID	依存関係	SO 5	サブセクション	PRI 原則	指標種別
SO 6	ゲートウェイ	該当なし	資産配分	1	プラス 自主開示

報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、**サステナビリティ・アウトカムに取り組む**ために、資産配分をどのように活用しましたか。

署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティ・アウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。

	(1)使用した資産配分活動	(2)事例を挙げて説明
(A)すべてのサステナビリティ・アウトカムについて	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1)資産クラス配分 (2)セクター配分 (3)第三者ファンドの選定と配分 (4)資産またはセクターからの撤退 (5)その他	[自由記述(任意):ラージ]
具体的なサステナビリティ・アウトカムについて:		
(B)サステナビリティ・アウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]
...	...	...

(K) サステナビリティ・アウトカム#10: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]
--	------	------

説明	
指標の目的	本指標の目的は、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、署名機関が資産配分をどのように利用しているかを把握することです。資産配分は、署名機関が実施するサステナビリティ・アウトカムへの取り組みに影響を与える重要な手段です。 この手段が、サステナビリティ・アウトカムの達成にどのように貢献するかは、署名機関が投資する資産クラスと事業を展開する（パブリック、プライベートなど）によって異なります。例えば、インフラストラクチャーやプライベート・エクイティでは、署名機関は通常、より高い保有シェアを持ち、また、中長期的な視野で投資を行うことで、資産配分を通じたサステナビリティへのアウトカムに対してより多くの取り組みができる可能性があります。
追加報告ガイダンス	署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組むことを選択したサステナビリティ・アウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。 本指標に対する回答では、報告年度中に、署名機関のサステナビリティ・アウトカムの目標を達成するために資産配分がどのように使われたか、また、これらの施策が、関連するサステナビリティ・アウトカムの大きな進捗にどのように貢献すると期待されているかについての詳細を説明してください。 回答には、ブレンド・ファイナンス・ストラクチャーなど、他の投資家と行った投資に関する情報を記載することもできます。 (1)の「その他」を選択した場合、(2)で関連する活動を説明してください。
他のリソース	その他の参考資料については、 SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID SO 7	依存関係	OO 17 FI	サブセクション 資産配分	PRI 原則 1	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			
報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、テーマ型債券を活用しましたか。					
			テーマ型債券ラベル		
(A) サステナビリティ・アウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]			☐ (A) グリーン／クライメート・ボンド ☐ (B) ソーシャル・ボンド ☐ (C) サステナビリティ・ボンド ☐ (D) サステナビリティ関連ボンド ☐ (E) SDG または SDG 関連ボンド ☐ (F) その他 具体的に記入: _____ [自由記述(必須):スモール]		
...			[同上]		
(J) サステナビリティ・アウトカム#10: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]			[同上]		

説明	
指標の目的	本指標の目的は、債券モジュールのテーマ型債券の指標[FI 15、FI 16、FI 17]に続くもので、署名機関がテーマ型債券を用いてサステナビリティ・アウトカムに取り組んでいるかどうかを把握することです。
追加報告ガイダンス	本指標は、[OO 20]で示したテーマ型債券の投資運用機関を対象としたものであり、テーマ型債券の潜在的な発行体を対象としたものではありません。 本指標は、アクティブ運用されている債券にのみ適用されます。

他の基準の参照	インターナショナル・ボンドの基準: CBI 気候債券基準 (CBI Climate Bonds Standard) 国際資本市場協会のグリーン・ボンド原則 (ICMA's Green Bond Principles) 国際資本市場協会のソーシャル・ボンド原則 (ICMA's Social Bond Principles) 国際資本市場協会のサステナビリティ・ボンド・ガイドライン (ICMA's Sustainability Bond Guidelines) 国際資本市場協会のサステナビリティ関連ボンド原則 (ICMA's Sustainability-Linked Bond Principles) 国連開発計画の債券発行者のための SDGs インパクト基準 (UNDP SDG Impact Standards for Bond Issuers) リージョナル・ボンドの基準: ASEAN ボンド基準 (ASEAN Bond Standards) オーストリアのエコラベル (Austrian Ecolabel) (UZ49) 欧州グリーン・ボンド基準 (EU Green Bonds Standard) Febelfin FNG-Siegel Greenfin ISR ラベル (Le label ISR) Luxflag グリーン・ボンド (Luxflag Green Bond) ノルディック・スワン・エコラベル (Nordic Swan Ecolabel) 中国人民銀行グリーン・ボンド・ガイドライン (People's Bank of China green bond guidelines) RIAA Towards Sustainability
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes:A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。
ロジック	
依存関係	[OO 17 FI]、[SO 1]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

投資先に対するスチュワードシップ[SO 8、SO 9]

指標 ID SO 8	依存関係	SO 5	サブセクション	PRI 原則	指標種別
	ゲートウェイ	該当なし	投資先に対するスチュワードシップ	2	プラス 自主開示
報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、投資先に対するスチュワードシップをどのように活用しましたか。					
署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティのアウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。					
	(1)アプローチの説明	(2)使用したスチュワードシップ・ツールまたは活動	(3)事例		
(A)すべてのサステナビリティ・アウトカムについて	[自由記述(任意):ラージ]	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1)エンゲージメント (2)株主総会での(代理)議決権行使 (3)株主総会決議または議案の提出 (4)取締役の指名 (5)取締役会または取締役会委員会(指名委員会など)における役割の活用 (6)投資先企業の役員への就任 (7)投資先企業および／または実物資産運用チームとの直接的な連携 (8)訴訟 (9)その他	[自由記述(任意):ラージ]		

具体的なサステナビリティ・アウトカムについて:

(B) サステナビリティ・アウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]	[同上]
...	...	...	
(K) サステナビリティ・アウトカム#10: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]	[同上]

説明

指標の目的	エンゲージメント、(代理)議決権行使、プライベート・アセットへの直接的な権限などを含む投資先に対するスチュワードシップは、サステナビリティの成果に取り組むことを目指す署名機関にとって、重要な影響力を持つ手段です。本指標の目的は、サステナビリティ・アウトカムの進捗させるために、署名機関が投資先に対するスチュワードシップにどのように取り組んでいるかを理解することです。これには、特定のエンゲージメント・ツールを選択した理由や、それらをどのように組み合わせているかが含まれます。 署名機関にとって、サステナビリティ・アウトカムを進捗させるために最も効果的と思われる方法で、広範な投資先スチュワードシップ・ツールを戦略的に使用し、必要に応じて組み合わせることは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティ・アウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。 本指標への回答では、投資先に対する個別および／または協働的なスチュワードシップについて説明しても構いません。 「(1)アプローチの説明」には、投資先に対するスチュワードシップを利用してサステナビリティ・アウトカムを進捗させる理由と方法を説明し、これらのスチュワードシップ活動が、サステナビリティ・アウトカムの進捗にどのようにつながると予想されるかを説明してください。 「(2)使用したスチュワードシップ・ツールまたは活動」には、サステナビリティ・アウトカムを進捗させるために、報告年度中に利用したスチュワードシップ活動をすべて選択してください。リストされているオプションは、投資先のスチュワードシップ活動を網羅するものではありません。その他の活動を行う署名機関は、オプション「(9)その他」を選択し、(1)にその活動を回答することができます。

	「(3)事例」には、報告年度中に投資先に対するスチュワードシップを利用して、サステナビリティ・アウトカムをどのように進捗させたかを示す事例を回答することができます。事例には、投資先に対する個別および／または協働的なスチュワードシップを記載しても構いません。使用した具体的なスチュワードシップ・ツール、どのツールが最も効果的で、どのツールが満足のいく結果につながらなかったか、これらのスチュワードシップ活動の結果が、サステナビリティ・アウトカムの進捗にどのように役立つと期待されているかについて詳しく回答することができます。 報告年度中に外部の投資運用会社やゼネラル・パートナーと協働した署名機関は、指標[SO 10]でその取り組みを報告することができます。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。 スチュワードシップの取り組みの改善については、PRI の アクティブ・オーナーシップ 2.0 (Active Ownership 2.0) ガイドも参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

指標 ID SO 9	依存関係	SO 5	サブセクション 投資先に対するスチュワードシップ	PRI 原則 2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

貴組織は、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、**サステナビリティ・アウトカムに取り組む**ために、**スチュワードシップ**を行う投資先に対してどのように優先順位を付けていますか。

本指標の内容は、Net-Zero Asset Owners Alliance (NZAOA) および／または Net-Zero Asset Managers Initiative (NZAM) の報告要件に基づいています。

オプションの順位: 1 = 最も重要、4 = 最も重要でない。

☐ (A) ポートフォリオの中で最も戦略的に重要な企業を優先的に選定している。 例えば、署名機関は、自社のポートフォリオの中で、他の企業や政策立案者、その他のステークホルダーに最も広範な影響力を持つ企業を優先する場合があります。 どのように実施しているかを説明: _____ [自由記述(任意): ミディアム]	[ドロップダウン・リスト] (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4
☐ (B) ポートフォリオの中で、サステナビリティ・アウトカムとの関連性が最も高い企業を優先的に選定している。 例えば、署名機関は、最も排出量の多い 20 社以上の投資先企業や、劣悪な労働環境が蔓延していることで知られるセクターの企業との取引を行っている場合があります。 どのように実施しているかを説明: _____ [自由記述(任意): ミディアム]	[同上]
☐ (C) 取り組んでいるサステナビリティ・アウトカムをある程度カバーできるように、ポートフォリオに含まれる企業に優先順位を付けている。 例えば、署名機関は、投融資先の排出量の 65% 以上をポートフォリオでカバーしている企業や、ポートフォリオ企業の 100% が紛争地域やリスクの高い地域で事業を展開している企業と取引している場合があります。 どのように実施しているかを説明: _____ [自由記述(任意): ミディアム]	...

☐ (D)その他 説明: _____ [自由記述(任意):ミディアム]	[同上]
---	------

説明	
指標の目的	本指標の目的は、サステナビリティ・アウトカムを発展させるために、どの投資先にスチュワードシップの取り組みを集中させるべきか、署名機関がどのように判断しているかを把握することです。 多くの署名機関は、サステナビリティ・アウトカムに貢献している(または、もたらす可能性のある)すべての投資先とエンゲージすることはできません。そのため、署名機関は通常、サステナビリティ・アウトカムを発展させるために、どの投資先とエンゲージするかについて優先順位を付ける必要があります。 投資先のアウトカムに対する(潜在的な)貢献の重要性に基づいてこの優先順位付けを行うことは、優れた取り組みであると考えられます。人権に関連するアウトカムについて、署名機関が、アウトカムの規模(個人または集団の権利)、範囲(影響される個人の数)、是正不能性、救済困難度(影響を受けた人々を少なくとも以前の状況と同等の状態に回復させる能力に関するあらゆる制限)を評価し、深刻度の概念に基づいて、重点的に取り組む投資先を優先することは、優れた取り組みであると考えられます。
追加報告ガイダンス	本指標への回答では、投資先に対する個別および/または協働的なスチュワードシップについて説明しても構いません。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク(Investing with SDG outcomes:A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。 署名機関による進歩したエンゲージメントとスチュワードシップについては、PRI のアクティブ・オーナーシップ 2.0(Active Ownership 2.0) ガイドも参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

外部の投資運用会社に対するスチュワードシップ[SO 10]

指標 ID SO 10	依存関係	OO 5、SO 5	サブセクション 外部の投資運用会社に対する スチュワードシップ	PRI 原則 2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

報告年度中に、貴組織または貴組織のために活動する外部サービス・プロバイダーは、どのように外部の投資運用会社と関わり、実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、サステナビリティ・アウトカムに取り組むようにしましたか。

この目的のために、貴組織が外部の投資運用会社と選定、指名、および／またはモニタリングのプロセスにおいて、どのように関わったかを説明してください。

署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティ・アウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。

	(1)アプローチの説明
(A)すべてのサステナビリティ・アウトカムについて	[自由記述(任意):ラージ]
具体的なサステナビリティ・アウトカムについて:	
(B)サステナビリティ・アウトカム#1:[SO 1の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]
(C)サステナビリティ・アウトカム#2:[SO 1の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]
...	...
(K)サステナビリティ・アウトカム#10:[SO 1の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、報告年度中に、署名機関が、外部の投資運用会社（該当する場合は、そのゼネラル・パートナーを含む）に対する影響力を、選定、指名、モニタリングする過程でどのように行使し、サステナビリティ・アウトカムを進展させたかを把握することです。
追加報告ガイダンス	署名機関はオプション（A）ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション（B）～（K）で取り組んでいるサステナビリティ・アウトカムの一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。 本指標への回答では、投資運用会社（該当する場合は、そのゼネラル・パートナーを含む）との個別および／または協働的なエンゲージメントについて説明しても構いません。 関連するサステナビリティ・アウトカムごとに、署名機関は、運用会社の選定、指名、モニタリングの各プロセスをどのように利用して行動を起こしたかを説明してください。このエンゲージメントがサステナビリティの成果にどのように貢献するのかについて詳しく説明しても構いません。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資：5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部および第 4 部を参照してください。 また、署名機関がサステナビリティ・アウトカムに取り組むために PRI をどのように活用するかなど、選定、指名、モニタリングのプロセスに関する専用のガイダンスについては、PRI の アセット・オーナー向けリソース (Asset owner resources) を参照してください。 署名機関による進歩したスチュワードシップについては、PRI の アクティブ・オーナーシップ 2.0 (Active Ownership 2.0) ガイドを参照してください。
ロジック	
依存関係	[OO 5]、[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

スチュワードシップ:政策立案者に対するエンゲージメント[SO 11]

指標 ID SO 11	依存関係	SO 5	サブセクション スチュワードシップ:政策立案者に対する エンゲージメント	PRI 原則 2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、**サステナビリティ・アウトカムに取り組む**ために、政策立案者に対する**エンゲージメント**をどのように利用しましたか。

署名機関はオプション(A)ですべての成果についてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティの成果の一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。

	(1)アプローチの説明	(2)使用したエンゲージメント・ツール または活動	(3)取り組んでいる施策の事例
(A)すべてのサステナビリティ・アウトカムについて	[自由記述(任意):ラージ]	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1)「サインオン」レターに参加した (2)政策協議に対応した (3)政府や規制当局が支援するワーキング・グループを通じて技術情報を提供した (4)自主的に政策立案者に働きかけた (5)その他の方法	[自由記述(任意):ラージ]
具体的なサステナビリティ・アウトカムについて:			
(B)サステナビリティのアウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]	[同上]

...	...	...	...
(K) サステナビリティのアウトカム#10: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	公共政策は、金融市場や社会、環境や経済システムの安定性と持続可能性に決定的な影響を与え、サステナビリティ・アウトカムを達成するための大規模な行動を後押しします。そのため、公共政策エンゲージメントは、投資家の責任と義務、またはサステナビリティ・アウトカムに向けた取り組みにおいて当然かつ必要な展開です。サステナビリティ・アウトカムに取り組むことに決めた署名機関は、こうした影響力を積極的に活用することが推奨されます。 署名機関は、サステナビリティ・アウトカムを進展させるために、政策立案者と関わる協働的イニシアティブを主導し、参加することが推奨されます。協働的なエンゲージメントは、サステナビリティ・アウトカムを得るための行動コストを分散させ、規模を拡大して成果を上げるための中心的な役割を果たします。署名機関は、アウトカムのための幅広い規制や法整備について、規制当局や政策立案者に働きかけることができます。このようなエンゲージメントは、自国市場および／またはポートフォリオの重要な部分を構成するすべての地域で発生する可能性があります。
追加報告ガイダンス	署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいるサステナビリティの成果の一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。 本指標への回答では、政策立案者に対する個別および／または協働的なエンゲージメントについて説明しても構いません。 (1)の「アプローチの説明」には、サステナビリティの成果を進展させるために政策立案者と関わる理由と方法を説明し、これらのエンゲージメントが、サステナビリティ・アウトカムに関する進展にどのように結びつくかと期待されるかを含めて説明してください。 (2)の「使用したエンゲージメント・ツールまたは活動」には、サステナビリティ・アウトカムを進展させるために、報告年度中に利用したエンゲージメント活動をすべて選択してください。記載されているオプションはすべてを網羅するものではありません。また、署名機関は成果への取り組みに向け、政策立案者と関わるための他のツールや活動を利用することもできます。その他の活動を行う署名機関は、「(5) その他」を選択し、(1)にその活動を記述することができます。 - 本指標での「サインオン」レターとは、政策立案者や規制当局に向けた起草済みの請願書やその他の文書を指し、署名機関は署名を添付することで支持を表明することができます。 - 本指標の「自主的に政策立案者に働きかけた」とは、署名機関が手配した政策立案者との1対1のエンゲージメントや直接会議を指します。

	(3)の「事例」には、報告年度中に、サステナビリティ・アウトカムを進展させるために取り組んだ方針の事例を回答することができます。事例には、政策立案者との個別および／または協働的なエンゲージメントを記載しても構いません。署名機関は、実施した具体的なステップ、どの行動が最も効果的で、どの行動が満足のいく結果につながらなかったか、これらのエンゲージメントの結果が、サステナビリティ・アウトカムの進展にどのように役立つかと期待されているかを詳しく説明することができます。 政策立案者に対するエンゲージメントは、投資家の資金をプールしてスチュワードシップを行うサービス・プロバイダーを通じて行われることもあります。これらは、規模に関係なく、すべての投資家が利用できるものです。
他のリソース	その他のガイダンスについては、責任ある政治的エンゲージメントのための投資家事例 (The investor case for responsible political engagement) と 政策アプローチ (Our policy approach) を参照してください。 PRI が招集したグローバル政策リファレンス・グループは、PRI の 6 つの原則に沿った責任投資に関し、署名機関が行う政策立案者に対する公共政策エンゲージメントを支援しています。 責任投資ポリシーの最近の進展について、署名機関の理解を促進する PRI のブリーフィング・ノートを参照してください。 また PRI の政策協議に対する公開回答も参照してください。その他の調査については、PRI の規制データベースを参照してください。このデータベースでは、投資やその他の経済分野と並行して ESG 要因が考慮されている既存の金融規制や政策が文書化されています。 その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 3 部を参照してください。 署名機関によるエンゲージメントとスチュワードシップの改善については、PRI のアクティブ・オーナーシップ 2.0 (Active Ownership 2.0) ガイドを参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

スチュワードシップ:他の主要なステークホルダーに対するエンゲージメント[SO 12]

指標 ID SO 12	依存関係	SO 5	サブセクション	PRI 原則	指標種別
	ゲートウェイ	該当なし	スチュワードシップ:他の主要なステークホルダーに対するエンゲージメント	2、5	プラス 自主開示

貴組織は、他の主要なステークホルダーと連携し、**グローバルなサステナビリティの目標や閾値**に沿った金融商品、サービス、研究、データなどの開発を支援していますか。

署名機関はオプション(A)ですべてのアウトカムについてまとめて報告するか、オプション(B)～(K)で取り組んでいる**サステナビリティ・アウトカム**の一部またはすべてについて具体的に回答するかを選択できます。

	(1) 関与した主要なステークホルダー	(2) エンゲージメントの詳細に関する説明
(A) すべてのサステナビリティ・アウトカムについて	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (1) 基準策定機関 (2) 報告機関 (3) 証券取引所 (4) 信用格付機関 (5) 監査法人 (6) 外部サービス業者(議決権行使助言会社、投資コンサルタント、データ・プロバイダーなど) (7) 学界 (8) NGO 団体 (9) 他の主要なステークホルダー	[自由記述(任意): ラージ]

具体的なサステナビリティ・アウトカムについて:

(B) サステナビリティ・アウトカム#1: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]
(C) サステナビリティ・アウトカム#2: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]
...	...	...
(K) サステナビリティ・アウトカム#10: [SO 1 の(3)への回答が事前入力済み]	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	グローバルなサステナビリティの目標や閾値に沿った金融商品、サービス、調査、データの入手が不十分であることは、サステナビリティ・アウトカムを上げることを目指す投資家にとって障害となる可能性があります。 本指標の目的は、署名機関が金融システムにおける他の主要なステークホルダーと連携し、金融商品、サービス、基準、研究、データ、他のリソースを、サステナビリティ・アウトカムに関するデータの標準化・文脈化を含め、グローバルなサステナビリティの目標や閾値に沿った形で開発しているかどうかを確認することです。
追加報告ガイダンス	本指標での、他の主要なステークホルダーとの「エンゲージメント」には、グローバルなサステナビリティの目標や閾値に沿った金融商品、サービス、調査、データの開発を、主要なステークホルダーが支援、協力、または奨励することが含まれます。 エンゲージメントの実施の事例には以下が挙げられます。 - サステナビリティ報告書とタクソノミーの一貫性を向上させる - 特定のサステナビリティのトピックに関する新しい指標を、報告書やサステナビリティのパフォーマンス分析に組み入れる - 新しいツールやフレームワークを適用し、グローバルなサステナビリティの目標に対する進捗をより適切に追跡、発信する
他のリソース	その他の参考資料については、 SDGs の成果を伴う投資:5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 5 部を参照してください。
ロジック	
依存関係	[SO 5]

ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	

スチュワードシップ:協働[SO 13]

指標 ID SO 13	依存関係	SO 5	サブセクション スチュワードシップ: 協働	PRI 原則 2	指標種別 プラス 自主開示
	ゲートウェイ	該当なし			

報告年度中に、貴組織は実際および潜在的なマイナスのアウトカムを防止または軽減することを含め、サステナビリティ・アウトカムに取り組むために、どのような協働的イニシアティブに貢献しましたか。

これらの協働的イニシアティブは、投資先、外部の投資運用会社、政策立案者、その他の主要なステークホルダーに対するスチュワードシップに焦点を当てたものでも構いません。最大 4 つの事例を挙げてください。

	(1)イニシアティブの名称	(2)この協働的イニシアティブに どのように貢献したか	(3)この協働的イニシアティブへの 参加についての詳細説明
(A)イニシアティブ#1	[自由記述(任意):スモール]	[多項目選択式のドロップダウン・リスト] (A)1つまたは複数の対象企業(投資先企業など)に対して主要投資家として参加した (B)1つまたは複数の対象企業(投資先企業など)に対して協働的な投資家として活動した (C)イニシアティブをパブリックに支持(エンドース)した (D)無償のアドバイス、調査、研修などを実施した (E)イニシアティブのコーディネーション(グループ会議の進行など)をサポート、またその他の事務的サポートを提供した (F)資金援助を行った	[自由記述(任意):ラージ]

		(G) 諮問委員会またはそれに類するものに所属していた (H) イニシアティブの資料および／またはリソースの開発(レポートの共著者など)に貢献した (I) その他	
(B) イニシアティブ#2	[同上]	[同上]	[同上]
(C) イニシアティブ#3	[同上]	[同上]	[同上]
(D) イニシアティブ#4	[同上]	[同上]	[同上]

説明	
指標の目的	本指標の目的は、署名機関が報告年度中にサステナビリティ・アウトカムを進展させるための協働的イニシアティブに参加しているかどうかを把握することです。PRI の原則 5 は、いくつかの自主的な規範やガイドライン(既存の各国のステュワードシップ規範、ICGN のステュワードシップ原則、OECD の機関投資家のための責任ある企業行動など)と共に、投資家が投資先や他のステークホルダーと協力して、共通の関心事に取り組むよう促しています。協働によって、署名機関は知識、時間、リソースをプールし、共通の関心領域について投資先や他のステークホルダーに影響を与え、サステナビリティの成果を実現するために必要なコストを削減し、規模に応じた進展を可能にします。 協働的イニシアティブを主導または支援するために最も適切な行動は、署名機関のリソースと能力、および各イニシアティブの相対的な戦略的重要性に大きく依存します。可能であれば、署名機関は、参加するいくつかのイニシアティブにおいてリーダーシップを発揮することが推奨されます。
追加報告ガイダンス	(2)の「この協働的イニシアティブにどのように貢献したか」には、報告年度中に(1)に記載した協働的イニシアティブへの貢献に関連する方法をすべて選択してください。 - オプション(A)では、報告年度中に関連するエンゲージメントを推進する責任を負う署名機関が選択してください。事例として、協働的イニシアティブと中心的な主体(投資先企業、投資運用会社、政策立案者、その他の主体やステークホルダーなど)との間の主な接点となることなどが挙げられます。 (B)では、報告年度中に準備のための電話やエンゲージメント会議に参加するなど、エンゲージメント活動に積極的に参加した署名機関が選択してください。 - オプション(I)を選択した署名機関は、(3)「この協働的イニシアティブへの参加についての詳細説明」に、この件に関する詳細を記入してください。 (3)「この協働的イニシアティブへの参加についての詳細説明」には、具体的にどのような形で支援を行ったのか、それがどのようにイニシアティブに付加価値を与えたのか、そして、その参加がサステナビリティ・アウトカムの進展にどのように寄与すると期待されるのかを説明してください。

	協働的イニシアティブへの参加には、スチュワードシップの目的で投資家のリソースをプールする有料のサービス・プロバイダーの利用も含まれ、小規模投資家が協働を促進するために活用されることが多くあります。
他のリソース	その他の参考資料については、SDGs の成果を伴う投資: 5 つのフレームワーク (Investing with SDG outcomes: A five-part framework) の第 4 部および第 5 部を参照してください。 より効果的なスチュワードシップのための PRI のフレームワークについての詳細は、アクティブ・オーナーシップ 2.0 - 急務となっているスチュワードシップの進化 (Active Ownership 2.0 - The evolution stewardship urgently needs) を参照してください。 投資家の受託者責任または同等の義務と集団的行動との関連性についての詳細な分析については、インパクトをもたらす投資に関する法的枠組み (A Legal Framework for Impact) を参照してください。 協働の合法性に関するその他の分析については、PRI の専用ウェブページ: システム障壁に対処する (Addressing system barriers) の PRI のガイダンスを参照してください。 スチュワードシップに関するその他の情報およびリソースは、PRI の専用ウェブページ: スチュワードシップ (Stewardship) より確認できます。
ロジック	
依存関係	[SO 5]
ゲートウェイ	該当なし
評価	
評価対象外	